

準々決勝&予選リーグ ハイライト



89分、田中(下)は敵と接触してしまい膝を負傷。交代を余儀なくされた



塩田が止めた!! 中国との死闘を制し準決勝へ

PK戦前、柳楽コーチ(右)と話す塩田。今大会の塩田は高いパフォーマンスを見せている



PK戦は地力で勝った日本の勝利。なんとか準決勝進出を果たした(岩田陽一撮影)

2003年8月26日 寿城区民運動場
日本代表1(PK4-2)1中国代表
得点= [日] 8分: 山崎雅人(PK)
[中] 63分: ワン・シュンギョ

<PK戦経過>
[日] ⑦〇、⑥〇、②〇、③〇
[中] ⑥〇、⑨〇、⑧×、⑦×

警告(C)/退場(S)
[日] 89分: 河端和哉(C)
[中] 24分: リアング・ハオ(C)、31分: ウォン・クアン(C)、45分: ヤン・ウェイ(C)

日本代表
GK①塩田仁史(4)
DF②村山祐介(4)、⑤岩政大樹(4)、⑬江添健次郎(3)、⑳河端和哉(4)
MF⑥保坂一成(3)、⑩中田洋介(4)←62分: ⑫前田雅文(3)、⑭田中成成(4)←89分: 中後雅喜(3)、⑰堀健人(4)
FW⑨山崎雅人(4)←82分: 原一樹(1)、⑱田代有三(4)
中国代表
GK①スン・チェン
DF③ヤオ・ラング、④リヤン・ハオ、⑩ソン・フェイ
MF⑥ユ・フェイ、⑦リ・シュング、⑧ヤン・ウェイ、⑯マ・サンパオ
FW⑤ザン・シュ、⑪ワン・クワングー70分: ⑫スン・リー、⑬ワン・ウェシュアン←56分: ⑭ワン・シュンギョ

[シュート]5:8[枠内シュート]2:4[決定確]14:4
[GK]8:5[PK]0:0[ファール]22:20[OS]13:2
[主審] リバ・ミロスラブ(チェコ) [観衆] 約800人

※上記データは全て左側の数字が日本、枠内シュート、決定確は本誌記者によるもの

無

無敗で予選リーグを突破した日本。その準々決勝の相手は中国。アジアの中心でも最近メキメキと力を付けてきたチーム。油断できない相手である。試合は8分に動く。フリーキックの際、村山が相手ディフェンダーに倒され日本がPKのチャンスを得る。これを山崎が落ち着いて決め先制。順調な立ち上がりだった。その後も堀が強烈なシュートを放つなど日本が攻勢を仕掛ける。初スタメンの中田もケガあけだとは思えないほどの運動量で中国ディフェンスを翻弄する。しかし、なかなか追加点が奪えない状態が続く。そしてこれが後々尾を引くことに。

後半は立ち上がりからフリーキックでチャンスを作られるなど危ないシーンもあったがここは粘り強いディフェンスでしのぐ。しかし、宮崎コーチの退場や中田がケガでベンチに下がると流れは徐々に中国に。そして、62分、河端のクリアミス拾われワン・シュンギョに強烈なミドルシュートを決められてしまう。その後は中国のカウンターが冴え次々と決定的な場面を作られてしまう。ロスタイムにはその攻撃を防ごうとした田中が負傷。中後との交代を余儀なくされる。そして試合はPK戦へ。

両者ともミスなしで迎えた中国3人目。塩田が見事に止めた日本が一步リード。日本の4人目、田代はなんなく決める。次のキッカーを止めれば勝利という場面。中国4人目リ・シュングの放ったキックは塩田の足に当たり高々と宙に。この瞬間、日本の準決勝進出

に。この瞬間、日本の準決勝進出